

新年ご挨拶

謹んで年の始めの

ご祝詞を申し上げます

理事長 佐々木 明 敏



皆様には、ご家族とともにお健やかに令和三年の初春をお迎えることとお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、従来の日常が大きく変化しており、私共の事業にも少なからず影響が出ているところであります。

「2020 ユーキャン新語・流行語大賞」に新型コロナウイルス感染症として避けるべき行動（密閉、密集、密接）を表した「3密」の言葉が輝きました。

感染予防と社会経済活動を両立するための「新しい生活様式」を取り入れて新型コロナウイルスと共存していかなければなりません。感染予防に努めながら、無理のない新しい挑戦と心のつながりを大切に一日一日を過ごしていきたいものです。

人生百年時代における高齢者は、元気な方々が増えたとはいえ、慢性疾患を持っている方も少なくありません。働く意欲がある高齢者の方々に、いきいきとした人生を送っていただき、生きがいをもって地域社会に貢献していただきますよう、そして、発注者や地域社会から信頼と存在感を得るためにも、安全就業と適正就業の確保に一層取り組んでまいります。

結びにあたり、会員の皆様のご健勝と一層のご協力をお願い申し上げますと共に明るい幸せな年でありますよう祈念申し上げます。



楽しい女性限定イベント エコバック作り・おやつ作り



食べやすい大きさに切り、ひねれば完成です



火にかけ、焦げないように材料を混ぜます

丁寧な指導でした



ステキなエコバックが完成しました

八月二十八日・三十日駅前さろん「銀」で会員の佐々木公子さんの指導で、布を持ち寄りエコバック作りを楽しみました。大小様々、個性豊かでステキなバックが仕上り大歓声、皆さんともうれしそうでした。

十一月二十日にはおやつ作りが行われ、「きな粉ひねり」に挑戦、濃厚で高級感あふれる出来上がりにビックリでした。今回はコロナ禍で、残念ながら少人数でしたが、皆さんの「またやりたいネ」の声にお応えし、楽しい「イベント」を色々と続けていく予定です。会員と限らず、女性であれば参加可能ですので、興味のある方は、事務局にお問い合わせください。

(取材 佐々木 ヒロ子)

ボランティア活動

遠野運動公園



令和二年度のボランティア活動は、九月十七日（木）市民運動公園内のわんぱく広場及び遊歩道の清掃活動に汗を流しました。

この日は、朝から曇り空の天候でありましたが、二十四名の会員が元気に参加してくれました。活動に先立って開会式が行われ、佐々木理事長と運動公園管理を担っている株式会社遠野施設管理サービスの千田取締役から感謝の言葉をいただき、そのあと事務局から活動についての指示があり、参加者全員で写真撮影のあと、早速作業開始となり、男の方は遊歩道の落葉や枯れ枝の片付け、女の方はわんぱく広場の草取りに励まれました。作業は順調に進み、十一時三十分に終了となり、閉会式に臨み、佐々木理事長及び株式会社遠野施設管理サービスの若松業務課長から、従事された会員の皆様に労をねぎらう言葉をいただき、無事にボランティア活動を終えることができました。

参加された皆様には大変お疲れさまでした。
(取材 菊池民彌)



遊歩道の落葉清掃



わんぱく広場の草取り

普通救命講習

～いざという時のために～

十月八日会員九名が参加し、救命講習会が開催されました。遠野消防署から講師を招き、昨年度の救急車の要請回数やテキストの説明をしていただいた後に、心肺蘇生法の実技を行いました。

今回は、感染症対策ということで、人工呼吸をしないという講習でした。胸骨圧迫を百八十回行えば、人工呼吸分を補えるということでしたが、リズムよく胸骨圧迫するのは、なかなか大変で、体力が必要であることを実感しました。また、近くにいる人に協力を得て、救急車を要請する人、心肺蘇生をする人、AEDを取りに行く人など手分けをすることが大切だということ、AEDの操作は、電源を入れることで、機械が状況判断し、メッセージが流れるので、怖がることなく冷静に使用すればよいことなどを学びました。

いざという時のために、繰り返し受講していただきたいと思えます。まだ受講されたことのない方は、来年是非参加してください。



胸骨圧迫をしている間に、もうひとりがAEDを用意します

十月六日（火）遠野市ふれあいプラザ大会議室に於いて、交通安全教室が開催されました。

講師の、遠野警察署交通課長 菅原和郎氏より「高齢者の交通事故防止について」講話をいただきました。その後「歩行環境シミュレーター」でVRを使った「道路の横断」を参加者十五人全員体験しました。

交通安全教室開催

スリーS運動の実践を！

岩手県内（昨年中）の交通事故死者数は、45人。そのうち高齢者で亡くなった方は、31人で、多くの尊い命が失われています。そのうち約半分（45%）が歩行中です。

歩くことに気を付けましょう

- ＝横断歩道＝
- ＝自宅付近（油断が事故を生む）＝
- ＝魔の時間（夕暮れ時）＝
- ＝明るい服装にする（反射材・反射タスキが有効）＝

スリーS運動

- ①STOP 止まる。
 - ②SEE 見る(安全確認)
 - ③STAY 待つ(危険回避)
- 運動の実践で、事故に逢わないようにしましょう。

VRを装着し、「右・左・右」



(取材 菊池秀昌)

刈り払い講習会

十一月十九日、株式会社 I S E K I アグリ営業本部北海道・東北営業所より二名の講師を招き、草刈り班員九名が参加し開催されました。

午前には、テキストを使って十七項目の注意点について説明がありました。また、エンジンの正しいかけ方、混合油の作り方、飛散防護カバーの必要性の他、講師がこれまでに聞いた事故の話があり、改めて「危険」であることに気付かされました。午後は、中庭に出て、会員個々の草刈り機械で実際に作業を行いました。「シルバーさんは、私よりも草刈りが上手で実技に關して、改めて教える必要はないです。」と話され、一時間程度で終了しました。

来シーズンの草刈り作業には、この講習の内容を草刈り班員に周知し、「事故0」に努めます。

機械草刈り班の菊池攻班長は、日ごろから自前の救急セットを持ち歩いているそうです。参加した草刈り班員に披露していました。「備えあれば憂いなし」



安全に作業するためには・・・。
事前の確認、冷静な判断を

安全に作業をしましょう！ ー除雪作業機械出発式ー



操作方法の確認をし、出発準備中です

十一月二十六日、除雪作業機械出発式が開催されました。
令和元年度には、除雪作業中に転倒し、打撲で通院という事故が発生しております。機械を使用する場合はもちろんですが、手作業での除雪でも、地面が凍結していることを想定して安全に作業してください。
令和元年度は、県内での事故発生件数がワースト二位でした。会員一人ひとりが注意をし、「事故0」を目指しましょう。
(安全衛生管理委員会)

会員の声

十五班(青笹町)

畑山 善彦

はじめまして、十五班の畑山です。

東日本大震災の年最初に退職し、未曾有の災害現場を目の当りに見たあの日、旧知のK氏からの「何かやろう」の誘いもあって、その年の五月末から山田町の応急仮設住宅工事、復興公共施設及び復興提案型住宅工事等の最中の平成二十九年に会員加入しています。シルバーの仕事に従事して二年程です。仕事の内容は清養園のボイラー及び一般業務、草刈り、剪定、本業の大工仕事及びボランティア活動にと微力ながらも日々奮闘中
リーダー及びグループの仲間には感謝の毎日です。

体力には、まだまだ自信がありませんので、これからも健康第一で就業、ボランティア活動に、また家庭菜園にも頑張っていきたいと思っています。



今後の予定

- 1月27日 接遇講習
- 1月28日 入会后6か月研修
- 1月28日 地域班会議欠席者研修

一人1会員勧誘活動にご協力ください。

全国の会員100万人達成に向け、重点目標としております。



◆ 会員募集 ◆

皆様のご近所に「この人なら会員にふさわしい」と思われる方はおりませんか？**毎月10日・25日**（土・日・祝日は翌日）の**午後1時30分**から入会希望者のための説明会を行っております。（入会するためには必ず説明会を受講して頂くこととなっております。）

お知り合いに体験談をお話いただき「まず、行ってみて」の一言でお誘いをお願いいたします。

駅前さろん「銀」 従事会員募集

仕事内容：さろん「銀」の運営
（商品管理・販売）

就業日：金・土・日・月
・イベント時

就業時間：10:00～16:00

※商品を提供できる方も**随時募集**しております

駅前さろん 遠野市新穀町3-12
080-8223-6476

詳しくは事務局 62-0577まで

新入会員の紹介

令和二年八月一日～十一月一日までの間に入会された方々です。よろしくお願ひします。（敬称略）

伊藤	照井	上原	村上	伊藤	小海	伊勢崎	菊池
藤井	由和	和美	テル	賢一	春蔵	志嗣	ツヤ
祐子	子子	子子	子子	一蔵	蔵	栄	ヤ
六班	二班	一班	十班	九班	一班	七班	六班
（遠野町）	（東館町）	（穀町）	（松崎町）	（附馬牛町）	（上組町）	（綾織町）	（遠野町）

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年は今までは異なるお正月を迎えられた会員の方が多いのではないかと思います。お元氣でお過ごしでしょうか。

令和2年度シルバー人材センターは創立三十一年目を迎え、新しい気持ちで活動をスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、年度初めの総会から開催方法の変更をしての開催となり、その後も事業・行事等紆余曲折しながら、なんとかセンター事業が進められてまいりました。

ひこばえ第六十七号は女性限定イベントの記事を中心にボランティア活動、各種講習会の様子、会員の声などの内容で編集しました。

本年も、ひこばえ編集にご協力いただきますよう宜しくお願いいたしますとともに、皆様にとって良い年となりますように祈念いたします。

（広報編集委員会副委員長 杉山健太郎）

